中学校日記》

学校生活の1コマを学生の手作り(写真・文)でお届けします。

mashiki_chuugakkou

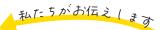
いろいろな人に出会った3日間 たくさん学びがあった職場体験



だるまっちゅ

9月18日から3日間、町役場で職場体験を行いました。期間中、多くの人々と出会い、さまざまな業務を体験しました。その経験を通して感じたのは、町役場が「地域の人々の支えになっている」ということです。2日目には、オレンジサロンの運営補助を担当しましたが、参加した皆さんの笑顔がとても印象に残りました。「こうしておしゃべりできる場を作ってくれるのがすごくうれしい」という参加者の言葉を聞き、地域交流の大切さを実感しま

した。この貴重な経験を生かし、今後も地域交 流やまちづくりへの参加を続けていきたいです。



(全員2年生・左から) 〈どうりゅうと 工藤龍斗さん、高木歩花さん、 は大なかいぶき 島中一颯さん、今村結月さん







♥ Q

#お電話おつなぎいたします #サロンで仲良くなりました #お手伝い、神対応

にじいろ通信

地域おこし協力隊がピックアップした、 復興やまちづくり、記憶の継承などさ まざまなトピックをご紹介します。

■復興の未来『系』

報告:吉海 雄大

「私たちになぜ歴史が必要なのか」という7月号のコラムは大きな反響をいただき、文章を通じて思いを届ける喜びを改めて実感しました。さて、気付けば今年も10月。地域おこし協力隊としての活動も残りわずかとなりました。これまで地域の皆さんと取り組んできた多種多様な活動が、結果として何に結び付くのか、そんな試論に今月はお付き合いください。

近年、国内外で自然災害が頻発しており、ニュースを見るたびに心が痛みます。益城町で活動している僕らができることは何か、と考える毎日です。ただ、阪神や中越、東北が益城町に示したように、他の被災地にとって、益城町が復興の未来像となることは間違いないと考えています。

今後起こり得る災害からの復旧・復興の現場におい

て、益城町の「復興まちづくり」が希望や勇気の源となり、未来の被災地の復興へと結び付くのです。

『系』とはつながりを指します。益城町の暮らしや日常、そして復興に向けた活動がより魅力的に映れば、『復興の未来系』として各地に広がっていくはずです。まずは町の皆さんと共に、間違いを恐れずに益城らしさを表現し、この地での経験を未来につなげていくチャレンジを続けていきたいと思います。



未来につなげるひととき。9月14日、「みんなでツナグ vol.7」をにじいろで開催。熊本地震の記憶の継承事業に関わる皆さんの活動を伺い、お互いの活動をねぎらう時間を過ごしました。

そのほか、いろんな活動を協力隊 Instagram で公開中! (@MASHIKI_KYORYOKUTAI) チェックしてみてください!

